



Hewlett Packard
Enterprise

Service Pack for ProLiant クイックスタートガイド

摘要

このガイドでは、Service Pack for ProLiant (SPP) について紹介し、このパックを使用して ProLiant サーバーおよびブレードサーバーならびにエンクロージャーのファームウェア、ドライバー、およびユーティリティを含むシステムソフトウェアを更新する方法について説明します。このガイドは、Microsoft Windows、Linux、および VMware の設定、ならびにサーバーでのファームウェアとソフトウェアの更新、メンテナンス、および展開についての知識や経験がある担当者を対象にしています。

部品番号: 679796-594
発行: 2017 年 7 月
版数: 1

ご注意

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品、およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。Hewlett Packard Enterprise は本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から許諾を得る必要があります。米国政府の連邦調達規則である FAR 12.211 および 12.212 の規定に従って、コマーシャルコンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメンテーションおよびコマーシャルアイテムのテクニカルデータ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダーが提供する標準使用許諾規定に基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

他社の Web サイトへのリンクを使用すると、Hewlett Packard Enterprise Web サイト外に移動します。Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外の情報は Hewlett Packard Enterprise の管理対象外であり、それらの情報について責任を負いかねますのでご了承ください。

商標

Microsoft[®]および Windows[®]は、米国および/またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

UNIX[®]は、The Open Group の登録商標です。

Linux[®]は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

目次

はじめに.....	5
Service Pack for ProLiant.....	5
SPP リリースのバージョン.....	5
カスタム SPP のダウンロード.....	5
SPP サプリメント.....	6
展開モード.....	6
オペレーティングシステムのサポート.....	6
SPP のダウンロードとインストール.....	7
SPP のダウンロード.....	7
SPP カスタムダウンロードのダウンロード.....	7
アップデートを展開する前に.....	7
SPP の展開のための SUM の使用.....	7
SPP コンポーネントを展開するための前提条件.....	8
オンライン展開の開始.....	8
オフライン展開の開始.....	9
SPP を展開する他の方法.....	9
SPP のステージ操作.....	10
SPP のステージ操作について.....	10
ISO のマウント.....	10
SPP からのコンポーネントの追加または削除.....	11
SPP の使用シナリオ.....	12
起動可能な SPP ISO を使用したサーバーファームウェアの更新.....	12
ローカルシステムからのローカルおよびリモートサーバーファームウェアの更新.....	12
スクリプトを使用した Linux サーバーのオンライン更新.....	13
FAQ.....	14
SPP バージョンの確認.....	14
ISO または解凍としての SPP の使用.....	14
iLO 5 更新オプション.....	14
iLO レポジトリ.....	14
インストールセット.....	14
システムリカバリセット.....	14
システムリカバリセットの作成.....	15
iLO 5 Gen10 のセキュリティ状態.....	15
オンラインモードまたはオフラインモードでの SPP の使用.....	16
ファームウェアコンポーネントまたはソフトウェアコンポーネントのみのインストール.....	16
SUM の使用によるシャーシの更新.....	17
SPP のサイレント展開.....	17
c7000 エンクロージャー全体とそのすべてのコンポーネントのアップグレード.....	17
更新のエンクロージャー順序の更新.....	17
USB Key Utility の使用.....	17

トラブルシューティング	20
レポートの生成と表示.....	20
SUM オンラインモードでのログファイルの収集.....	20
SUM のオフラインモードでのログファイルの収集.....	20
SUM ログの位置.....	20
USB キーにコピーすると SPP が正常に動作しない.....	21
Active Health System データのダウンロード	21
アクティブヘルスシステムビューアにログインする.....	22
AHSV への AHS ログのアップロード.....	23
Web サイトおよびサポート	24
Web サイト.....	24
サポートと他のリソース.....	24
Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス.....	24
アップデートへのアクセス.....	25
カスタマーセルフリペア (CSR)	25
リモートサポート (HPE 通報サービス)	25
保証情報.....	26
規定に関する情報.....	26
ドキュメントに関するご意見、ご指摘.....	26
用語集	27

はじめに

Service Pack for ProLiant

SPP は、単一のダウンロードとして提供されるシステムソフトウェアおよびファームウェアソリューションです。このソリューションは展開ツールとして SUM を使用し、サポートされる ProLiant サーバーでテストされています。

SPP は SUM および iSUT と連携して ProLiant サーバーおよび BladeSystem インフラストラクチャを体系的に更新する、Smart Update システムメンテナンスツールです。

SPP は、Windows または Linux ホストオペレーティングシステム上でオンラインモードで使用することができ、また、ISO ファイルに格納されたオペレーティングシステムでサーバーが起動されている場合は、オフラインモードで使用できます。

SPP をダウンロードするには、SPP のダウンロードページ (<https://www.hpe.com/servers/spp/download>) を参照してください。

詳しくは

[SPP のダウンロード\(7 ページ\)](#)

SPP リリースのバージョン

SPP バージョンは、ほとんどのサーバーの主要なリリースでリリースされ、Hewlett Packard Enterprise のその他のソフトウェア製品のリリースもサポートします。現在と以前の SPP バージョンについては、SPP ダウンロードページ <https://www.hpe.com/servers/spp/download> を参照してください。

特定の SPP または SPP サプリメントについて詳しくは、<https://www.hpe.com/info/spp/documentation> の SPP Information Library にあるリリースノート参照してください。

カスタム SPP のダウンロード

カスタム SPP のダウンロードサイトでは、完全な SPP、ベース SPP、またはカスタム SPP をダウンロードすることができます。

- ベース SPP : 元の SPP リリース日付で提供されるすべてのコンポーネントが含まれます。
- 完全な SPP : 「ベース SPP ISO」からのドライバーとファームウェアコンポーネントに加え、すべてのホットフィックス、OS サプリメントおよび MSB が含まれます。
- カスタム SPP : SPP カスタムダウンロードは、SPP をフィルタリングしてダウンロードするオンラインサービスです。次のことができます。
 - 環境に合わせて SPP ダウンロードをカスタマイズできます。
 - ダウンロードファイルのサイズを縮小できます。
 - コンポーネント用のフィルターを選択できます。
 - SPP サプリメントを追加できます。

オフライン用のカスタムブート可能 ISO を作成するには、必ず以下を選択してください。

- **ブート可能 ISO オプション。**
- すべての Linux オペレーティングシステム (オペレーティングシステムをフィルタリングする場合)。

注記:

オフラインモードではファームウェア更新のみが展開されます。

詳しくは

[SPP カスタムダウンロードのダウンロード\(7 ページ\)](#)

SPP サプリメント

SPP サプリメントは、ソフトウェアやファームウェアコンポーネントを含むバンドルです。SPP サプリメントは、通常の SPP のリリースサイクル外で必要とされる機能のサポートを提供します。Hewlett Packard Enterprise は、サプリメントを通じてサポートが必要なときにサポートを提供します。そのため、お客様は次の SPP を待つ必要がありません。SPP サプリメントのサポートは、関連する SPP のサポート期間の一部として含まれています。対応する展開済み SPP 上に Maintenance Supplement Bundle を追加すると、12 か月のサポート期間が、MSB のリリース後 12 か月に延長されます。

バンドル内のコンポーネントに関する情報は、サプリメントのリリースノートに記載されています。

SPP ダウンロードページ <https://www.hpe.com/servers/spp/download> から各 SPP のサプリメントをダウンロードします。

Linux コンポーネントも <https://www.hpe.com/servers/sdr> の Software Delivery Repository (SDR) で入手できます。

リリースノートは、<https://www.hpe.com/info/spp/documentation> の SPP Information Library にあります。

SUM の最新バージョンは、SUM のダウンロードページ <https://www.hpe.com/servers/sum-download> でダウンロードできます。

展開モード

サーバーファームウェアはオンラインモードまたはオフラインモードで更新できます。展開モードについて詳しくは、<http://www.hpe.com/support/SUM-UG-en> で提供されている *Smart Update Manager ユーザーガイド* を参照してください。

オペレーティングシステムのサポート

SPP リリースには、SPP に含まれるアップデートを展開できるバージョンの SUM が含まれます。SUM は、Windows、Red Hat Enterprise Linux、および SuSE Linux Enterprise Server のサポートされるバージョンで実行できます。バージョンおよびシステム要件について詳しくは、SUM Information Library の Web サイト <http://www.hpe.com/info/sum-docs> にある *Smart Update Manager リリースノート* を参照してください。

システム要件、前提条件、およびサポートされるオペレーティングシステム、サーバー、デバイスについては、SPP Information Library の Web サイト <http://www.hpe.com/info/spp/documentation> にある SPP リリースノートおよびサーバーサポートガイドを参照してください。

HPE ProLiant サーバー向けのオペレーティングシステムおよび仮想化ソフトウェアのサポートについて詳しくは、<http://www.hpe.com/info/ossupport> (英語) の OS サポートサイトを参照してください。

SPP を使用して VMware システムを更新する方法について詳しくは、SPP Information Library にある『VMware: Best Practices for maintaining firmware, drivers and system software using the SPP and the SDR』を参照してください。

SPP のダウンロードとインストール

SPP のダウンロード

手順

1. Web ブラウザーを開き、http://www.hpe.com/jp/servers/spp_dl にアクセスしてください。
2. ダウンロードするファイルを選択します。
3. 必要な場合、製品の資格認証情報を提供します。
4. ファイルをシステムのディレクトリに保存します。

SPP へのアクセスは、HPE サポートセンターを介して確認する必要があります。アクティブ保証または HPE のサポート契約は、SPP をダウンロードするために必要とされます。詳細については、[SPP 保証/サポート契約の確認に関するドキュメント](#)を参照してください。

SPP カスタムダウンロードのダウンロード

以下のことが可能です。

- カスタム SPP を作成する。
- 使用可能なファイルをダウンロードする。
- カスタム SPP を削除する。デフォルトの SPP は、ページから削除できません。

SPP カスタムのダウンロードページのヘルプについては、[SPP カスタムダウンロードの FAQ](#) ページを参照してください。

手順

1. Web ブラウザーを開き、<https://www.hpe.com/servers/spp/custom> にアクセスしてください。
2. SPP へのアクセスは、HPE サポートセンターを介して確認する必要があります。アクティブ保証または HPE のサポート契約は、SPP をダウンロードするために必要とされます。詳しくは、[SPP 保証/サポート契約の確認に関するドキュメント](#)を参照してください。HPE パスポートへのログインが必要です。
3. 必要に応じて、[ここでのサインイン](#)をクリックして、HPE パスポートユーザーの認証情報を入力します。
4. ページの左側から、SPP を選択します。

アップデートを展開する前に

ビジネスクリティカルなサーバーや複雑なまたは分散された環境内のサーバーに更新を展開する前に

- 更新計画を作成することでダウンタイムを最小限に抑えます。
- システムの最新のバックアップが利用できることを確認します。

詳しくは、<http://www.hpe.com/info/sum-docs> で提供されているベストプラクティスガイドを参照してください。

SPP の展開のための SUM の使用

SPP を使用してターゲットへの展開を開始するために、オンラインモードを使用するか、オフラインモードを使用するかを決定します。

- オンラインモードでは、SUM は、ホストサーバーが使用する Windows または Linux オペレーティングシステム上で実行します。
- オフラインモードでは、サーバーは SPP ISO イメージに含まれる、小規模 Linux ブート環境で起動します。このオペレーティングシステムは、ISO に含まれるバージョンの SUM を実行できます。オフラインモードでは、ファームウェア Linux コンポーネントを展開できます。
 - オフライン自動モードでは、SUM はユーザーの介入なしにコンポーネントを展開します。
 - オフラインの対話式モードでは、画面の指示に従ってコンポーネントを更新します。

SPP コンポーネントを展開するための前提条件

SPP の前提条件については、<http://www.hpe.com/info/spp/documentation> の SPP Information Library にあるリリースノートを参照してください。

SUM の前提条件については、<http://www.hpe.com/info/sum-docs> にある Smart Update Manager リリースノートを参照してください。

オンライン展開の開始

注記:

EULA ファイルは、ISO イメージの EULA ディレクトリにあります。このファイルは、サポートされている Web ブラウザーで表示できます。

手順

1. SPPUSB サムドライブ、ハードドライブ、またはファイルシステムにコピーします。
2. ISO のルートから SUM を起動します。
 - a. `launch_sum.bat`
(Windows)
 - b. `./launch_sum.sh`
(Linux)



ヒント:

ファームウェアまたはソフトウェアのみをアップデートする場合は、コマンドラインから次のコマンドを実行してサーバーをアップデートできます。

- `smartupdate /s /romonly` - この属性で、SUM はインストールに必要なファームウェアコンポーネントだけを展開します。
- `smartupdate /s /softwareonly` - この属性で、SUM はインストールに必要なソフトウェアコンポーネントだけを展開します。

注記:

これらの例は Windows システム用です。Linux システムを使用している場合は、/を--に置き換えます。例えば、`smartupdate --s --softwareonly`。

注記:

SUM 8.0.0 は VMware を実行している Gen10 サーバーの更新をサポートしません。VMware vSphere Update Manager を使用して VMware ノードを更新するか、オフラインモードでサーバーに更新を展開します。

詳しくは

[USB Key Utility の使用](#)(17 ページ)

[前提条件\(18 ページ\)](#)

[起動可能な USB キーの作成\(18 ページ\)](#)

[起動可能 USB キーへの内容の追加\(19 ページ\)](#)

オフライン展開の開始

手順

1. SPP を USB メモリ、ハードドライブ、またはファイルシステムにコピーします。USB メモリを使用する場合、ISO はブート可能でなければなりません。
2. SPP ISO でオペレーティングシステムが起動するようにサーバーを起動します。
3. 自動モードまたは対話モードのいずれかを選択します。
 - a. 自動モードを選択すると、以降は操作しなくてもファームウェアが自動的に更新されます。
 - b. 対話モードを選択する場合は、画面の説明に従います。
4. SUM を使用して、更新をサーバーに展開します。SUM 使用の詳細については、<http://www.hpe.com/info/sum-docs> にあるユーザーガイドを参照してください。

詳しくは

[USB Key Utility の使用\(17 ページ\)](#)

[前提条件\(18 ページ\)](#)

[起動可能な USB キーの作成\(18 ページ\)](#)

[起動可能 USB キーへの内容の追加\(19 ページ\)](#)

SPP を展開する他の方法

以下のツールを使用して SPP を展開することもできます。

- HPE SIM : HPE SIM 経由の SPP アップデートの展開については、<http://www.hpe.com/info/insightmanagement/sim/docs> を参照してください。
- HPE OneView : HPE OneView がサーバーを管理している場合は、HPE OneView を使用してサーバーを更新します。詳しくは、<http://www.hpe.com/info/oneview/docs> を参照してください。

SPP のステージ操作

SPP のステージ操作について

SPP をダウンロードした後で、SPP の更新と展開のステージを決めます。各環境の展開プロセスに最適なステージ方法を選択してください。

注記:

ProLiant コンポーネントの構成設定を保存する場合は、デフォルトディレクトリが読み取り専用でないことを確認してください。また、SUM を使用して、コンポーネントの設定を構成して別のディレクトリに保存することもできます。

- **起動可能な USB キーの作成** - ISO を起動可能 USB キーに抽出することは、単一または少数のサーバーに物理的にアクセスできる場合に、SPP を利用可能にするもっとも簡単な方法です。USB キーは書き込み可能なので、すべての SPP コンポーネントに適しています。
 - Windows - SPP に含まれている USB Key Utility を使用します。
 - Linux - SYSLINUX を使用します。

❗ 重要:

OA を使用する場合は、SPP を USB キーに直接コピーし、ISO パッケージのまま保存してください。最大 ISO サイズは 4 GB です。ISO が大きすぎる場合は、SUM を使用してカスタム ISO を作成します。

- **ISO のマウント** - ローカルファイルシステムからの ISO のマウントは、ターゲットサーバーでオペレーティングシステムが動作しており、そのサーバーにネットワーク経由でアクセスできる場合に、SPP からコンポーネントをインストールする最も簡単な方法です。手順については、[ISO のマウント](#)(10 ページ)を参照してください。
- **SPP のハードディスクドライブへのコピー** - ISO をハードディスクドライブにコピーしておく、SPP をリモートサーバーの更新に向けて準備する際に便利です。ハードディスクドライブは書き込み可能なので、すべての SPP コンポーネントに適しています。

詳しくは

[USB Key Utility の使用](#)(17 ページ)

[前提条件](#)(18 ページ)

[起動可能な USB キーの作成](#)(18 ページ)

[起動可能 USB キーへの内容の追加](#)(19 ページ)

ISO のマウント

ISO ファイルをマウントすることにより、ISO の内容に直接アクセスできます。

手順

1. サーバーがファイルにアクセスできるように ISO をマウントします。
2. マウントしたディレクトリの最上位フォルダを開きます。
3. SUM を実行するため、ターミナルウィンドウで `launch_hpsum.bat` (Windows) または `./launch_hpsum.sh` (Linux) をダブルクリックします。

注記:

ISO をマウントしてから、ISO からハードディスクドライブにファイルをコピーすることもできます。必要に応じて、SUM を実行して ISO をベースラインとして追加します。

SPP からのコンポーネントの追加または削除

個別手順の情報は、<http://www.hpe.com/info/spp/documentation> にある『SUM ベストプラクティス実装ガイド』から入手できます。

次のような場合には、SPP のコンポーネントを追加または削除できます。

- SPP に含まれていないホットフィックスまたは新たにリリースされたコンポーネントをご使用の SPP ベースラインに挿入する。
- 必要なファイルだけが確実にシステムにロードされるようにする（これにより、トラブルシューティングが必要な場合に、変更の追跡が容易になることがあります）。
- 他社製品との互換性を維持する。たとえば、FC HBA に対する更新版が Hewlett Packard Enterprise からリリースされたときに、外部スイッチのベンダーがこの更新版をサポートしていない場合、この更新版を削除することによってスイッチベンダーのサポートを継続して受けることができます。

SPP の使用シナリオ

この章では、SPP の典型的な使用を示す高度な手順について説明します。これらのシナリオを活用すると、SPP について学習したり、SPP を使用するためにインストール手順と更新手順を適応させたり、ご使用の環境での SPP の使用を評価したりすることができます。

注記:

機能やインターフェイスは SPP リリースに含まれる SUM のバージョン間で変わることがあることに注意することが重要です。シナリオは、ご使用の環境に一致しない場合があります。<http://www.hpe.com/info/spp/documentation> にある各 SUM バージョンに対応した詳細手順を参照してください。

起動可能な SPP ISO を使用したサーバーファームウェアの更新

このシナリオは、SUM のプリインストール環境によって識別されたファームウェアを更新するブート可能方法を使用してサーバーファームウェアを更新します。これは、オペレーティングシステムなしでシステムをインストールまたは更新する場合に最適な方法です。

手順

1. SPP ISO をダウンロードします。
2. ターゲットシステムを決定し、iLO 経由で接続します。
 - a. ターゲットシステムのコンソールに接続します。
 - b. ブート可能な SPP ISO を iLO 仮想メディアに接続します。
3. サーバーを ISO から起動します。
4. サーバーがプリインストール環境から起動したら、自動モードまたは対話式モードを選択します。対話式モードを選択すると、SUM の GUI が起動します。自動モードを選択すると、SUM はユーザー入力なしで更新を展開します。
5. 対話式モードでは、以下の操作を行います。
 - a. SUM は SPP レポジトリをスキャンします。
 - b. SUM はローカルマシンをスキャンして、古いファームウェアコンポーネントを検出します。
 - c. SUM は、インストールされているファームウェアコンポーネントに対して使用できるファームウェアコンポーネントのレポートを提供します。
 - d. SUM は依存関係を識別し、ファームウェアを更新します。
6. 詳しくは、『*Smart Update Manager ユーザーガイド*』を参照してください。

ローカルシステムからのローカルおよびリモートサーバーファームウェアの更新

この方法で、ローカルホストサーバーおよびリモートサーバーを更新します。ローカルシステムから SPP を起動し、SUM を使用してベースラインとサーバーを追加し、サーバーのインベントリを作成してから、更新を展開します。このプロセスでは、オンラインサーバーを再起動する必要はありません。通常、このタイプの更新は、インフラストラクチャファームウェアの更新に使用されます。

手順

1. 完全な SPP ISO をダウンロードします。
2. ISO をローカルのディレクトリまたは共有に解凍するか、ISO をローカルの仮想ドライブにマウントします。

3. ルートディレクトリで、Start.htm をダブルクリックして、画面の指示に従います。
4. SUM を起動し、SPP ISO をベースラインとして追加します。SUM と同じディレクトリにベースラインが存在する場合、SUM はベースラインを自動的に追加します。SUM によるベースラインのインベントリが終了したら、次の手順に進みます。詳しくは、『Smart Update Manager ユーザーガイド』を参照してください。
5. インベントリを作成して更新する BladeSystem シャーシの OA の IP アドレスを取得します。
6. SUM の[ノード]画面で**ノードの追加**をクリックし、サーバーの情報を入力します。
Gen10 サーバーは iLO 5 情報を表示し、インストールセット、iLO 5 を管理するアクションを含み、iLO レポジトリから保存済みインストールセットを展開します。
7. **アクション > インベントリ**の順にクリックします。
8. SUM でインベントリ作成プロセスが終了したら、サーバーで使用可能な更新がある場合は、**アクション > レビュー/展開**の順にクリックします。
9. SUM は、自動的に更新を選択します。適用する更新を選択するか、適用しない更新を選択解除します。
10. **展開**をクリックして展開を開始します。

スクリプトを使用した Linux サーバーのオンライン更新

この方法は、入力ファイルを使用して、スクリプト方式でオンライン Linux サーバー用のすべてのソフトウェアコンポーネントを更新します。SUM を Windows サーバーから起動する場合は、類似のプロセスを Windows サーバーにも使用できます。スクリプト式入力ファイルは、Windows 環境と Linux 環境の両方で類似しています。

Gen10 サーバーでは、iLO レポジトリにインストールセットを保存できるパラメーターを追加できます。

手順

1. ブート可能な SPP ISO をダウンロードします。
2. SPP ISO をローカルのディレクトリまたは共有に解凍またはマウントするか、ISO をローカルの仮想ドライブにマウントして SUM にアクセスします。
3. コマンドラインオプションに基づいて入力ファイルを準備します。例：


```
REBOOTALLOWED = YES
REBOOTREQUIRED = YES
REBOOTDELAY = 15
BUNDLESLIST = bp001190.xml
SAVEINSTALLSET = YES
```
4. SUM コマンドラインオプションについては、*Smart Update Manager CLI ガイド*を参照してください。
5. 入力ファイルを使用して SUM を開始します。
6. `./smartupdate --s --softwareonly --inputfile`
7. `/softwareonly` スイッチを指定すると、SUM はドライバーやエージェントのようなソフトウェアコンポーネントを更新します。
8. 入力ファイルの完全なファイルパスを指定します。詳しくは、<http://www.hpe.com/info/sum-docs> で提供されている *Smart Update Manager CLI ガイド*を参照してください。

FAQ

SPP バージョンの確認

手順

1. SUM のベースラインライブラリに、ベースラインとして SPP を追加します。SUM により、SPP のバージョンが表示されます。

ISO または解凍としての SPP の使用

このツールは、SPP が ISO または解凍されたファイルのどちらを使用するかを決定します。SPP が ISO フォーマットまたは解凍された状態である必要があるかどうかは、使用されるツールによって異なります。例えば、iLO 仮想メディアは ISO から起動されます。

iLO 5 更新オプション

iLO 5 を搭載する Gen10 サーバーでは、サーバーを 2 つの方法で更新することができます。

- SUM を備えたオペレーティングシステムを介して更新を展開します。
- iLO 5 を介して更新を展開します。SUM は iLO 5 に更新をロードします。iSUT は iSUT モードに基づいて更新を展開します。これには以下が必要です。
 - Integrated Smart Update Tools 2.0.0.0 以降
 - AMS 管理ツール

iSUT の詳細は、<http://www.hpe.com/info/sut-docs> を参照してください。

iLO レポジトリ

iLO レポジトリは、システムボードに埋め込まれた不揮発性フラッシュメモリ内の安全なストレージ領域です。このフラッシュメモリは、iLONAND と呼ばれます。SUM または iLO を使用して、iLO レポジトリ内の署名済みソフトウェアおよびファームウェアコンポーネントを管理します。

iLO、UEFI BIOS、SUM、および他のクライアントソフトウェアは、これらのコンポーネントを取得し、サポートされるサーバーに適用できます。SUM を使用して保存されているコンポーネントをインストールセットに整理し、SUM または iLO を使用してインストールキューを管理します。

iLO、SUM、および BIOS が連携してソフトウェアとファームウェアを管理する方法については、SUM ドキュメントを参照してください。

インストールセット

インストールセットは、1 つのコマンドでサポートされるサーバーに適用できるコンポーネントのグループです。SUM を使用してインストールセットを作成します。iLO を使用して、iLO Web インターフェイスに既存のインストールセットを表示できます。

iLO、SUM、および BIOS が連携してソフトウェアとファームウェアを管理する方法については、SUM ドキュメントを参照してください。

システムリカバリセット

デフォルトでは、システムリカバリインストールセットがすべてのサーバーに付属します。リカバリセット権限を持つユーザーアカウントがこのインストールセットを構成できます。

デフォルトのシステムリカバリセットには、以下のファームウェアコンポーネントが含まれます。

- システム ROM (BIOS)
- iLO ファームウェア
- システムプログラマブルロジックデバイス (CPLD)
- イノベーションエンジン
- サーバープラットフォームサービス (SPS) ファームウェア

デフォルトのシステムリカバリセットが削除された場合、リカバリセット権限を持つユーザーは SUM を使用してインストールセットを作成してから、iLO RESTful API を使用してシステムリカバリセットとして指定できます。システムリカバリインストールセットは一度に 1 つのみ存在できます。

システムリカバリセットの作成

更新ツールを使用してインストールセットを iLO レポジトリに保存します (例えば SUM)。

始める前に

- iLO でのリカバリセットアクセス許可。
- iLO レポジトリ内に保存されるインストールセット。
- iLO RESTful API。

手順

1. iLO RESTful API を開きます。
2. リカバリセットとして定義されているインストールセットがある場合、PATCH コマンドを使用して、IsRecovery パラメーターを false に定義します。

```
PATCH /redfish/v1/UpdateService/InstallSets/[install_set_ID]/
{
  "IsRecovery": false
}
```

3. PROMOTE コマンドを使用して、保存したインストールセットの IsRecovery パラメーターを true に変更します。

```
PROMOTE /redfish/v1/UpdateService/InstallSets/[install_set_ID]/
{
  "IsRecovery": true
}
```

iLO 5 Gen10 のセキュリティ状態

Gen10 ノードを SUM に追加すると、iLO とホストオペレーティングシステム間の通信は、CHIF インターフェイスを介して行われます。iLO のセキュリティ状態に応じて、通信は次のモードで動作します。

通常モード (稼働モード)

通常モードでは、通信は暗号化されません。

セキュアモード

セキュアモードでは、iLO とホストオペレーティングシステム間の通信は暗号化され、承認および認証されます。

ノードが FIPS セキュリティモードを使用していることを SUM が検出した場合、SUM はそのノードを更新しません。FIPS モードをアクティブ化する前に、ノードを更新します。

Gen10 サーバーセキュリティモードについて詳しくは、<https://www.hpe.com/info/sum-docs> の *HPE Gen10 セキュリティリファレンスガイド* を参照してください。

オンラインモードまたはオフラインモードでの SPP の使用

オンラインモードでは、通常のサーバー環境でホストプロセッサが動作している状態で、インストールが行われます。サーバーで Microsoft Windows Server 2012 が実行され、その環境でアップデートが行われる場合などが該当します。ファームウェアの更新のためにサーバーを起動して特別な環境に入れる必要はありません。ただし、ファームウェアをアクティブにするために、ターゲットを再起動しなければならない場合があります。可能な限り、オンラインモードを使用することをおすすめします。

オフラインモードでは、ファームウェアの更新のみをサポートしています。SUM は、小さな Linux カーネルを起動し、単一のサーバーにファームウェア更新を展開します。オフラインモードは、単一レポジトリを使用するローカルシステムのみを更新できます。通常のローカルホストオペレーティングシステムを必要とする一部の SUM 機能は、サポートされません。以下の状況にあり、必要な場合に、オフラインモードを使用することをおすすめします。

- ・ オフラインモードのみでサポートされているコンポーネントのインストールまたは更新。
- ・ ターゲットにサポートされるまたは機能するオペレーティングシステムがない。

ファームウェアコンポーネントまたはソフトウェアコンポーネントのみのインストール

SUM を使用して、ファームウェアコンポーネントまたはソフトウェアコンポーネントを別個に展開することができます。

GUI モードで、ファームウェアコンポーネントまたはソフトウェアコンポーネントだけを含むカスタムベースラインを作成します。

CLI モードで、次のコマンドを使用します。

手順

1. `smartupdate /s /romonly`

このフィルタースイッチでは、SUM インストールに必要なファームウェアコンポーネントだけを展開します。

2. `smartupdate /s /softwareonly`

このフィルタースイッチでは、SUM インストールに必要なソフトウェアコンポーネントだけを展開します。

注記:

これらのコマンドは Windows 用です。Linux ノードからアップデートを展開する場合は、/を--に置き換えます。例：

```
smartupdate --s --softwareonly
```

注記:

SUM 使用の詳細については、*Smart Update Manager CLI ガイド*を参照してください。

SUM の使用によるシャーシの更新

手順

1. SUM は、更新の開始前に、ターゲットに対して依存性チェックを実行してすべての依存関係が満たされていることを確認します。また、SUM の検出プロセスでは、ターゲットで必要な更新が検出され、SUM が更新を正しい順序で行えるようになります。

SPP のサイレント展開

手順

1. SUM CLI と入力ファイルモードには、それぞれ /s パラメーターがあります。オフラインモードで、自動モードを使用してファームウェアをインストールします。これらのモードの使用については詳しくは、*Smart Update Manager CLI User Guide* を参照してください。

c7000 エンクロージャー全体とそのすべてのコンポーネントのアップグレード

SUM は、すべてのサーバーファームウェアをオンラインモードで更新します。SUM は、OA を NIC インターフェイス経由ではなく OA インターフェイス経由で更新します。SPP は、サーバーファームウェアの更新に使用するファームウェアバージョンを提供します。

G7 以前のターゲットを更新する場合は、更新するターゲットの IP アドレスまたは DNS 名を入力します。SUM はターゲット上の OA ホストサーバーのリストを検出します。また、OA ホストサーバーリストにサーバーが追加されている場合は、ターゲットを追加するかどうかをユーザーに尋ねます。

AMS を実行する Gen8 以降のサーバーを使用している場合は、IP アドレスを入力する必要はありません。

更新のエンクロージャー順序の更新

更新の順序は、オペレーティングシステムがすでにインストールされているかどうかと VC ファームウェアバージョンで決まります。

VC ファームウェアのバージョンが 1.34 より古い場合は、OA とブレードを同時にアップデートできます。

VC ファームウェアのバージョンが 1.34~3.00 の場合は、次の手順に従います。

- オペレーティングシステムがない場合は、まず、ブレードインフラストラクチャファームウェア（OA または VC）を更新し、次にブレード（オフライン）を更新します。
- オペレーティングシステムがある場合は、まず OA を更新し、ブレード（オンライン）と VC を同時に更新します。
- VC ファームウェアが 3.00 より大きい場合は、最初に OA ファームウェア 3.00 をインストールする必要があります。

USB Key Utility の使用

USB Key Utility は、Intelligent Provisioning または SPP の内容、およびその他の CD または DVD イメージを USB フラッシュドライブにコピーする Windows アプリケーションです。USB フラッシュドライブにデータをコピーした後、Intelligent Provisioning または SPP を、CD または DVD からではなく、USB フラッシュドライブから実行できるようになります。このプロセスは、ヘッドレスサーバーを操作する場合に役立ちます。また、Web から取得したイメージの内容を必要に応じてカスタマイズできるため、内容の保存、移動、および使用が簡単になります。

ユーティリティをインストールすると、スタートメニューのシステムツールにショートカットが追加されます。

機能

USB Key Utility は以下をサポートします。

- 1 GB より大きな ISO ファイル。
- USB フラッシュドライブのクイックフォーマット機能。
- 最大 32 GB までの USB フラッシュドライブ。32 GB より大きな USB フラッシュドライブはユーティリティに表示されません。

前提条件

USB フラッシュドライブにアプリケーションをインストールするには、サポートされるソース CD、DVD、または ISO と、それらソースの内容を保存できるだけの空きスペースを備えた USB フラッシュドライブを用意する必要があります。USB Key Utility では、メディアまたは ISO イメージよりも大きいストレージ容量 (2 GB 以上) を備える USB 2.0 フラッシュドライブが必要です。

注記:

バージョン 2.0 以降の USB Key Utility は、32 ビットオペレーティングシステムをサポートしません。

AutoRun ファイル

AutoRun ファイルはユーティリティから自動的に開始しません。AutoRun ファイルを起動するには、USB キー上の該当する CD または DVD フォルダーで、autorun.exe ファイルをダブルクリックします。

起動可能な USB キーの作成

ユーティリティをインストールすると、スタートメニューの USB Key Utility プログラムグループにショートカットが追加されます。

手順

1. USB Key Utility フォルダーの **USB Key Utility** ショートカットをダブルクリックします。
2. アプリケーションの指示に従い、以下の各ステップを実行します。
 - a. スプラッシュ画面で **次へ** をクリックします。
 - b. エンドユーザー使用許諾契約書を確認したら、**同意する** を選択し **次へ** をクリックします。
 - c. **CD/DVD から起動可能な USB キーを作成** を選択し、**次へ** をクリックします。

注記:

SUM 6.2.0、SPP 2014.02.0、または Intelligent Provisioning 1.60 以降で **起動可能な USB キー** にさらに **CD/DVD を追加オプション** を選択しないでください。これらの製品は、単一デバイスでのマルチブート環境をサポートしなくなりました。

- d. 空いている USB ポートに、USB フラッシュドライブを挿入します。メディアをオプティカルドライブに挿入するか、ISO イメージをマウントして、**次へ** をクリックします。
- e. ソースのドライブ文字およびターゲット USB フラッシュドライブのドライブ文字を選択し、**次へ** をクリックします。



ヒント: 使用するドライブキーが見つからない場合は、**ターゲット再スキャン** をクリックするか、新しいドライブキーを挿入してください。



注意:

ターゲット USB キー上のすべてのデータが削除されます。

- f. 警告メッセージの画面で **次へ** をクリックします。

USB フラッシュドライブがフォーマットされ、ソースの内容が USB フラッシュドライブにコピーされます。

- g. README.TXT ファイルを表示するには、完了をクリックします。

注記:

表示する README.TXT ファイルが ISO に含まれている場合にのみファイルが表示されます。

起動可能 USB キーへの内容の追加

USB フラッシュドライブに十分な空きスペースがあり、UEFI ブートローダー（これは、セキュリティ上の理由で複数のイメージをサポートしません）で機能する内容をロードしていない場合、USB Key Utility は、単一の USB フラッシュドライブ上で複数のイメージをサポートします。

注記:

SUM 6.2.0、SPP 2014.02.0、または Intelligent Provisioning 1.60 以降は、単一のデバイスでのマルチブート環境をサポートしなくなりました。SUM、SPP、および Intelligent Provisioning には、UEFI ブートローダーで動作するために署名された部分が含まれています。この変更により、USB キーなどの単一のデバイス上でのマルチブート設定ができなくなりました。

手順

1. 起動可能な USB キーを作成する手順に従います。
2. USB Key Utility フォルダの **USB Key Utility** ショートカットをダブルクリックします。
3. アプリケーションの指示に従い、以下の各ステップを実行します。
 - a. スプラッシュ画面で、**次へ** をクリックします。
 - b. エンドユーザー使用許諾契約書を確認したら、**同意する** を選択し、**次へ** をクリックします。
 - c. **起動可能な USB キーにさらに CD/DVD を追加** を選択し、**次へ** をクリックします。
 - d. 空いている USB ポートに、USB フラッシュドライブを挿入します。メディアをオプティカルドライブに挿入するか、ISO イメージをマウントして、**次へ** をクリックします。
 - e. ソースのドライブ文字およびターゲット USB フラッシュドライブのドライブ文字を選択し、**次へ** をクリックします。
 - f. 情報画面で **次へ** をクリックします。

ソースの内容が USB フラッシュドライブにコピーされます。
- g. README.TXT ファイルを表示するには、**完了** をクリックします。

注記:

表示する README.TXT ファイルが ISO に含まれている場合にのみファイルが表示されます。

4. USB キーにコピーする各ソースメディアまたはイメージで、ステップ 2~3 を繰り返します。

トラブルシューティング

レポートの生成と表示

レポジトリの内容、ターゲットのファームウェア、ターゲットのインストールの詳細、および失敗した依存関係について説明するレポートファイルを HTML または XML 形式で作成できます。いずれのファイルも、Microsoft Internet Explorer のような Web ブラウザーで表示できます。レポートでサポートされる Web ブラウザーは、JavaScript 対応の Internet Explorer 6.0 および Mozilla Firefox 3.5 以上です。XML レポートでは、レポート情報を抽出し、他の位置に表示するプログラムを書くことができます。

注記:

すべての画面ですべてのレポートを利用できるわけではありません。レポートが使用できない場合、SUM ではレポートはグレーに表示され、選択できません。

既知の制限事項の一覧は、<http://www.hpe.com/info/spp/documentation> にある SPP Information Library から、使用する環境に合った SPP リリースノートを参照してください。

注記:

ログの収集とレポートの作成についてはバージョン間で違いがあるため、SPP Information Library から使用環境に合った SUM 製品のドキュメントを参照してください。

SUM オンラインモードでのログファイルの収集

SUM は、内部プロセスおよびデバッグ情報を含む一連のデバッグログファイルを生成します。これらのログは、SUM の問題の確認に役立てることができます。ログファイルは、`/var/tmp/sum` ディレクトリ (Linux) および `%LOCALAPPDATA%\sum` ディレクトリ (Windows) に格納されます。SUM は、アップデートする機能およびノードごとにログファイルを作成します。

SUM は、`GatherLogs.bat` (Windows) または `Gatherlogs.sh` (Linux) という名前のユーティリティを備えており、すべてのログを使用して圧縮ファイル (Windows では `.zip`、Linux では `tar.gz`) を作成します。ログファイルを参照するために、このユーティリティを実行して 1 つのファイルにすべてのログを収集できます。

手順

1. SUM ディレクトリを開き、`gatherlogs.bat` (Windows) または `gatherlogs.sh` (Linux) を起動します。
2. 一時停止せずにログを実行する場合は、`gatherlogs -s` コマンドを使用します。

SUM のオフラインモードでのログファイルの収集

手順

1. オフラインモードで SPP または SUM を起動します。
2. コマンドプロンプトを **CTRL+ALT+D+B+G** キーを押して SUM GUI から起動します。
3. ログを保存するディレクトリを選択します。ログは、別のコンピューターで参照するために、リムーバブルメディアに保存できます。

SUM ログの位置

- SUM のログ

- Windows の場所 : C:\cpqsystem\sum\log\- Linux の場所 : /var/log/sum/<ip>/sum_log.txt
- 指定された<ip>アドレスにあるノードの最高レベルのユーザーログ。
- SUM の複数のセッションが同じログファイルに含まれています。
- 実行されたステップと、システムにインストールされているコンポーネントのサマリーが含まれます。
- ノードのリターンコードが含まれます。
- SUM の詳細ログ
 - Windows の場所 : C:\cpqsystem\sum\log\ - Linux の場所 : /var/log/sum/<ip>/sum_detail_log.txt
 - IP アドレスにあるノードの詳細レベルのユーザーログ。
 - SUM の複数のセッションが同じログファイルに含まれています。
 - ノード上で実行されている各コンポーネントからの完全な出力が含まれます。
 - 各コンポーネントとそのノードのリターンコードが含まれます。
- SUM のインストールの詳細ログ
 - Windows の場所 : C:\cpqsystem\sum\log\ - Linux の場所 : /var/log/sum/<ip>/SUM_InstallDetails.xml
 - 最新インストールのユーザーの XML バージョンのステータス。
 - 全体的なステータスの詳細が含まれます。
 - インストールされている各コンポーネントについての詳細が含まれます。
- cpqsetup ログ
 - Windows の場所 : C:\cpqsystem\log\cpqsetup.log
 - Linux の場所 : /var/log/sum/Component.log
 - 各コンポーネントの自己検出と、展開されたインストールの詳細が含まれます。
- 個々のコンポーネントによって作成されたその他のログ
 - Windows の場所 : C:\cpqsystem\log*.log
 - Linux の場所 : /var/cpq/*.log
 - Flash.debug.log
 - Verbose.log
 - Cpxxxxxx.log

USB キーにコピーすると SPP が正常に動作しない

症状

SPP が USB キーから起動しない。

アクション

1. USB キーを ext2 または ext3 としてフォーマットするか、カスタムベースラインを作成し、4 GB より小さいカスタム SPP ISO イメージを作成します。

Active Health System データのダウンロード

HPE サポートは、Active Health System (AHS) ログファイルを問題解決のために使用します。

ケースを送信するための高度な手順は次のとおりです。

1. 次の手順に従い、サポートの問題が発生しているサーバーから AHS ログをダウンロードします。
2. Active Health System ビューアー (<http://www.hpe.com/servers/AHSV>) に AHS ログをアップロードします。**AHVS への AHS ログのアップロード**を参照してください。
3. 自己修復アクションの推奨については、障害検出解析を確認します。詳しくは、*AHSV ユーザーガイド*を参照してください。
4. AHSV ナビゲーションメニューを使用して、サポートケースを作成します。詳しくは、*AHSV ユーザーガイド*を参照してください。

Active Health System ログ画面を使用して、AHS ログファイルケース番号の形式で、または .ahs 拡張子付きデフォルト文字列の形式で AHS テレメトリーデータをサーバーから USB キーにダウンロードします。この画面を使って、データ抽出が必要な期間と、送信先メディアとして使用する USB キーを選択します。特定の開始/終了日を選択して、データ抽出の期間を限定できます。

iLO を通して接続している場合、仮想デバイスから共有されたローカル接続の USB キーは、AHS ログ情報を保存するために使用できます。

Intelligent Provisioning Active Health System のダウンロードオプションの使用

手順

1. サーバーに USB キーを挿入します。
2. サーバーの起動中に **F10** キーを押して、Intelligent Provisioning を起動します。
3. Intelligent Provisioning のメンテナンスの実行画面から **Active Health System ダウンロード**をクリックします。
4. **Active Health System ダウンロード**画面のドロップダウンリストから USB キーを選択します。

注記:

Active Health System ダウンロードを起動した後に USB キーを挿入した場合は、**再スキャン**をクリックします。

5. メニューからデータの取得期間を選択します。7 日間のデータを取得することをおすすめします。10 ~15 MB のファイルが作成されます。
6. フォームに連絡先の情報を入力します (任意)。連絡先の情報はカスタマーサービスが支援を提供するために役立ちます。
7. USB キーにデータを保存するには、**ダウンロード**をクリックします。

データがダウンロードされたら、Active Health System Viewer にアップロードします。AHS ログのアップロードの詳細は、**AHVS への AHS ログのアップロード**を参照してください。

アクティブヘルスシステムビューアーにログインする

手順

1. AHSV Web ページにアクセスするには、<http://www.hpe.com/servers/ahsv> にサポートされているブラウザで移動します。サポートされているブラウザは、以下のとおりです。
 - Internet Explorer 11
 - Chrome 51 以降
 - Firefox 46 以降
2. **ユーザー ID** (メールアドレス) と **パスワード** を入力して、**サインイン** をクリックします。

注記:

HPE パスポートアカウントを使用してログインする場合や HPE パスポートアカウントを作成する場合は、<http://www.hpe.com/info/insightonline-ja> に移動します。ほとんどの場合、HPE パスポートアカウントは HPE パスポートアカウントの登録プロセス中に使用したメールアドレスと同じです。Hewlett Packard Enterprise サポートセンターでユーザー ID を変更した場合は、必ず、メールアドレスではなくユーザー ID でログインしてください。

注記:

ログイン認証情報をシステムに記憶させるには、**ログイン情報を記憶**を選択してから**サインイン**をクリックしてください。

AHSV への AHS ログのアップロード

最大ファイルサイズは 250MB です。250MB よりも大きいログについては、HPE サポートセンターまでお問い合わせください。

始める前に

**重要:**

AHS ログを作成したサーバーは、保証が有効になっていなければなりません。サーバーの保証が切れていると、「サーバーに資格がありません。ライセンスを更新するために以下のオプションを確認してください。」というエラーメッセージが表示されます。以下のオプションから選択できます。

- ライセンスをさらに購入する
 - ライセンス購入のためのパートナーを探す
 - HPE サポートにお問い合わせください。
-

手順

1. **Upload AHS Log** を選択します。
2. ログファイルに移動して、**開く**をクリックします。

解析とログロードの状態を示すウィンドウが表示されます。AHS ログをロードしていると、画面に予想される完了時間が表示されます。

**ヒント:**

このウィンドウには、さまざまなプラットフォームのビデオも表示されます。ログファイルがロードされるのを待っている間に、さまざまなビデオを検索して再生できます。

ロードプロセスをキャンセルするには、**キャンセル**をクリックします。

Web サイトおよびサポート

Web サイト

Hewlett Packard Enterprise Information Library	http://www.hpe.com/info/EIL
Smart Update Manager	http://www.hpe.com/servers/sum
Smart Update Manager のダウンロード	http://www.hpe.com/servers/sum-download
Smart Update Manager Information Library	http://www.hpe.com/info/sum-docs
Smart Update ツール	http://www.hpe.com/servers/sut
Smart Update ツールの Information Library	http://www.hpe.com/info/sut-docs
Service Pack for ProLiant	http://www.hpe.com/jp/spp
Service Pack for ProLiant のドキュメント	http://www.hpe.com/info/spp/documentation
Service Pack for ProLiant のダウンロード	http://www.hpe.com/jp/servers/spp_dl
<i>HPE Gen10 セキュリティリファレンスガイド</i>	http://www.hpe.com/support/gen10-security-ref-ja
Service Pack for ProLiant カスタムダウンロード	http://www.hpe.com/servers/spp/custom
HPE SDR サイト	http://downloads.linux.hpe.com

上記以外の Web サイトについては、[サポートと他のリソース](#)を参照してください。

サポートと他のリソース

Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス

- ライブアシスタンスについては、Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide の Web サイトにアクセスします。

<http://www.hpe.com/assistance>

- ドキュメントとサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの Web サイトにアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

ご用意いただく情報

- テクニカルサポートの登録番号（該当する場合）
- 製品名、モデルまたはバージョン、シリアル番号
- オペレーティングシステム名およびバージョン
- ファームウェアバージョン
- エラーメッセージ
- 製品固有のレポートおよびログ

- アドオン製品またはコンポーネント
- 他社製品またはコンポーネント

アップデートへのアクセス

- 一部のソフトウェア製品では、その製品のインターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするためのメカニズムが提供されます。ご使用の製品のドキュメントで、ソフトウェアの推奨されるソフトウェアアップデート方法を確認してください。
- 製品のアップデートをダウンロードするには、以下のいずれかにアクセスします。

Hewlett Packard Enterprise サポートセンター

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

Hewlett Packard Enterprise サポートセンター：ソフトウェアのダウンロード

<http://www.hpe.com/support/downloads>

Software Depot

<http://www.hpe.com/support/softwaredepot>

- eNewsletters およびアラートをサブスクライブするには、以下にアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/e-updates>

- お客様の資格を確認および更新して、契約および保証をプロフィールにリンクするには、次に示す Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **More Information on Access to Support Materials** ページにアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/AccessToSupportMaterials>

❗ 重要:

一部のアップデートにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからアクセスするときに製品の製品資格が必要になる場合があります。関連する資格を使って HPE パスポートをセットアップしておく必要があります。

カスタマーセルフリペア (CSR)

Hewlett Packard Enterprise カスタマーセルフリペア (CSR) プログラムでは、ご使用の製品をお客様ご自身で修理することができます。CSR 部品を交換する必要がある場合、お客様のご都合のよいときに交換できるよう直接配送されます。一部の部品は CSR の対象になりません。Hewlett Packard Enterprise もしくはその正規保守代理店が、CSR によって修理可能かどうかを判断します。

リモートサポート (HPE 通報サービス)

リモートサポートは、保証またはサポート契約の一部としてサポートデバイスでご利用いただけます。リモートサポートは、インテリジェントなイベント診断を提供し、ハードウェアイベントを Hewlett Packard Enterprise に安全な方法で自動通知します。これにより、ご使用の製品のサービスレベルに基づいて、迅速かつ正確な解決が行われます。ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くおすすめします。

ご使用の製品にリモートサポートの追加詳細情報が含まれる場合は、検索を使用してその情報を見つけてください。

リモートサポートおよびプロアクティブケア情報

HPE 通報サービス

<http://www.hpe.com/jp/hpalert>

HPE プロアクティブケアサービス

<http://www.hpe.com/services/proactivecare-ja>

HPE プロアクティブケアサービス：サポートされている製品のリスト

<http://www.hpe.com/services/proactivecaresupportedproducts>

HPE プロアクティブケアアドバンスドサービス：サポートされている製品のリスト

<http://www.hpe.com/services/proactivecareadvancedsupportedproducts>

保証情報

ご使用の製品の保証またはサーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報に関するドキュメントを確認するには、「エンタープライズの安全性、規制への適合」の Web サイトを参照してください。

<http://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

追加保証情報

HPE ProLiant と x86 サーバーおよびオプション

<http://www.hpe.com/support/ProLiantServers-Warranties>

HPE エンタープライズサーバー

<http://www.hpe.com/support/EnterpriseServers-Warranties>

HPE ストレージ製品

<http://www.hpe.com/support/Storage-Warranties>

HPE ネットワーク製品

<http://www.hpe.com/support/Networking-Warranties>

規定に関する情報

安全、環境、および規定に関する情報については、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからサーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報を参照してください。

<http://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

規定に関する追加情報

Hewlett Packard Enterprise は、REACH（欧州議会と欧州理事会の規則 EC No 1907/2006）のような法的な要求事項に準拠する必要に応じて、弊社製品の含有化学物質に関する情報をお客様に提供することに全力で取り組んでいます。この製品の含有化学物質情報レポートは、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/reach>

RoHS、REACH を含む Hewlett Packard Enterprise 製品の環境と安全に関する情報と準拠のデータについては、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/ecodata>

社内プログラム、製品のリサイクル、エネルギー効率などの Hewlett Packard Enterprise の環境に関する情報については、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/environment>

ドキュメントに関するご意見、ご指摘

Hewlett Packard Enterprise では、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントを改善するために役立てさせていただきますので、何らかの誤り、提案、コメントなどがございましたら、ドキュメントフィードバック担当（docsfeedback@hpe.com）へお寄せください。この電子メールには、ドキュメントのタイトル、部品番号、版数、およびドキュメントの表紙に記載されている刊行日をご記載ください。オンラインヘルプの内容に関するフィードバックの場合は、製品名、製品のバージョン、ヘルプの版数、およびご利用規約ページに記載されている刊行日もお知らせください。

用語集

DUD

Driver User Diskette

EFM

Enclosure Firmware Management - OA の機能

HBA

host bus adapter。ホストバスアダプター

SUM

HP Smart Update Manager

HPE iLO

Integrated Lights-Out

LDU

Linux Deployment Utility。Linux 展開ユーティリティ

LILO

Linux Loader

OA

Onboard Administrator

POST

Power-On Self-Test。電源投入時セルフテスト

PSP

HPE ProLiant Support Pack

RBSU

HPE ROM-Based Setup Utility。HPE ROM ベースセットアップユーティリティ

RIBCL

Remote Insight Board Command Language。リモート Insight ボードコマンド言語

RPM

Red Hat Package Manager

SAS

serial attached SCSI

SDR

Software Delivery Repository

SMH

HPE System Management Homepage

SOAP

Simple Object Access Protocol

SPP

Service Pack for ProLiant

SSH

セキュアシェル

SSL

Secure Sockets Layer

SUV

serial, USB, video。シリアル、USB、ビデオ

TPM

Trusted Platform Module

UNC

Universal Naming Convention

VC

Virtual Connect

VCA

Version Control Agent。バージョンコントロールエージェント

VCRM

Version Control Repository Manager。バージョンコントロールレポジトリマネージャー

WMI

Windows Management Instrumentation

XML

extensible markup language